



掲示板情報

更新通知をON☑

ブックマークに追加

作成者：同窓会事務局



検索用キーワード

同窓会報 令和3年秋号 退任教授挨拶

退任教授挨拶

川崎医科大学 衛生学 名誉教授 大槻剛巳（6期）

同窓生の皆様、6期生の大槻剛巳です。2021年3月末で、川崎医科大学を辞し、岡山県真庭郡新庄村の新庄村国保診療所に赴任しました。平成の自治体の合併を経て、岡山県には2つの村が残りました。県北東よりの西粟倉村と、大槻がおります新庄村です。人口規模は、西粟倉村が大きく1,400余人、新庄村は900人前後です。特色は「1889年（明治22年）の町村制施行以来、合併が一切行われていない自治体である。」ということです。岡山地名事典（1974年発刊、日本文教出版）によりますと明治元年には戸数242、人数1,238人だったそうですが、戦後は2,200人を超えていた時もあったようです。元々は、出雲街道の本陣・宿場町で栄えたところであり、明治39（1906）年、『宿場町の街道の両側に日露戦争での戦勝を記念して桜が植えられました。5.5mおきに132本のソメイヨシノが咲き揃う素晴らしい桜並木のトンネルは新庄村の春を代表する景色です。通りの両側には、いつも、さらさらと流れる水路があり、そのやさしい音色は「日本の音風景百選」「日本のかおり風景百選」にも選ばれています。』（岡山観光WEBより）の紹介そのままの春の桜の風情は、言葉で言い尽くせないものです。2021年はコロナ禍で、縮小した「がいせん桜まつり」だったのですが、それでも、例年より相当に早く3月には咲き始めて、赴任後すぐでしたが、日々の散歩コースで楽しめました。また「ひめのもち」は名産で（村の田圃の半数以上は糯米栽培だそうです）、これは本当に旨いのです。ファンの方は、年末には遠方からも道の駅に買いに来られたり、でも、県南のスーパーでは、特設コーナーで販売もされています。『また、毛無山を主峰とする1000m級の美しい連山に囲まれ、岡山県三大河川のひとつ旭川の源流域にもあたります。毛無山にあるブナの原生林を中心とした混生樹林が多く植物、野鳥の宝庫となっており、希少な動植物も数多く生息しています。』と村のウェブにも紹介されています通り、自然もいっぱいです。さらに、がいせん桜通りには「須貝邸」という古民家を改築した宿があり、食事は地元を知り尽くしたまだ若い村出身の料理長（銀座で修業済み）が作る、旬の里山の食材を生かした和のコース料理が提供されています。ちなみに2020年10月には「ミシュランガイド岡山2021」掲載店に、宿泊部門で掲載されました。都会の喧騒を離れた時間を過ごすことができます。そして、実はこの古民家、鉄道（姫新線）開通（1923年＝大正12年）で県境の一寒村に陥るまでは、江戸時代に五代続いた網島家、その後、室家、その後、石原氏、須貝氏、岡崎氏という医師が医業に携わっていたようで（村史による）、この須貝氏の館が、現在の須貝邸だそうです。確かにコンビニもスーパーも無い村ですが、単身赴任で官舎に住まわせて頂いて、学生時代以来の自炊をしながら、診療、そして今年はワクチン接種に明け暮れています。ぜひ、一度、おいでください。

【略歴】

1975年3月	川崎医科大学附属高等学校卒業	1981年5月	川崎医科大学附属病院研修医
1981年3月	川崎医科大学医学部卒業	1983年4月	川崎医科大学血液内科（含む 大学院）
1989年3月	川崎医科大学大学院修了	1992年4月	ミネソタ大学血液内科
		1993年7月	米国国立衛生研究所（NIH）
		1996年4月	川崎医科大学衛生学
		2021年4月	新庄村国民健康保険診療所

写真1：2021年のがいせん桜通り

写真2：診療所の前の桜

写真3：須貝邸の玄関前

写真4：村の初夏の景色

写真5：総本陣木代邸

写真6：初夏の診療所玄関前